

## 1 日時

令和7年10月16日（木）午前10時10分から午前11時30分まで

## 2 開催場所

柏市役所本庁舎3階 庁議室

## 3 出席者

### (1) 選定委員会委員

染谷副市長（委員長）、小島企画部長（副委員長）、鈴木総務部長、中山財政部長、吉田健康医療部理事、島澤高齢者支援課長

【専門委員】小菅瑠香氏（芝浦工業大学建築学部教授）、山本敏子氏（柏北部地域包括支援センター長）

### (2) 高齢者支援課（施設所管部署及び事務局）

高橋副主幹、岡主任

## 4 配布資料

同日開催、指定管理者候補者選定委員会書類審査時に配布済

## 5 議事概要

（※以下、染谷副市長が委員長として議事を進行）

### (1) はじめに

委員長より挨拶

### (2) 面接審査について

#### 【主な内容】

・書類審査において面接審査の対象とした応募団体1団体（以下、「応募団体」という）について、面接審査を実施する。

・面接時間は、50分間（入退室時間を除く）とする。うち、20分をプレゼンテーション、30分を質疑応答の時間とする。

#### 【応募団体に対する主な質疑応答】※社会福祉法人柏市社会福祉協議会

**小菅委員** 今の利用者以外からニーズを吸い上げる方法はあるか。提案の内容はプログラムベースであるが、将来的にプログラムが無くても自主的に多世代が利用できる居場所となれるように展開できるような方策はあるか。

**応募団体** 利用者のニーズの吸い上げについては、ラコルタ柏にて多世代交流事業に係る様々なプログラムを展開しており、そこから情報を吸い上げ老人福祉センターとのすり合わせができればと考えている。

将来的な方策について、老人福祉センター条例の規定があるため大々的に多世代をアピールするのは難しいが、イベントを実施しながらお孫さんを取り込む時期を設けてるなどして進めていきたいと考えている。

**鈴木委員** 受託者として3館一括で管理するメリット・デメリットはあるか。また、今回の提案の中で、具体的指標として新規利用登録者数170人とあるが、現在の利用者はどの程度なのか。

**応募団体** メリットは、他の老人福祉センターとの整合を図りながら総括し、公

平性を確認しながら運営ができる点である。デメリットは、柏寿荘について職員の常駐が難しいことから、手間がかかってしまうのではないかと感じていることである。

現在、広報かしわや地域の町会回覧による周知、施設リピーターによる口コミなどで新規利用者獲得を目指している。前年度の新規利用者の目標達成率は、90%程度であった。老人福祉センターを地域資源と捉え、啓発・広報をしながら高齢者の居場所づくりを目指したいと考えている。

**委員長** 既存の登録者数はどれくらいか。

**応募団体** 登録カードを作っており、その数は1,000人強である。ただ、リピーターが主であり、引越しや亡くなった方を考えると、実際は500~600人程度ではないか。

**山本委員** 車椅子の方や歩行器を使わないと歩けない方も利用できるようにする考えはあるか。また、障害者の受入れはどのように考えているか。

**応募団体** 認知症の方の利用相談は過去にある。その際は、職員同士で情報共有をしながらその方の尊厳を活かし、利用できる方策をとっている。ただし、建物の構造上、車椅子・歩行器具使用の方の利用が難しい施設もあるため、その場合は別の施設を紹介している。

**中山委員** 提案は全施設共通に見受けられ、企画は本部、実施は現場という印象であるが、各施設の主体性や地域性はあるのか。また、アンケートは年1回ということであったが、日常の意見徴収はどうしているのか。最後に、多世代交流について、柏市からの提案をどのように汲んでいるのか、法人として多世代交流の目的や効果をどう捉えているか。

**応募団体** 理学療法士に学ぶ介護予防講座やICT講座は3館共通であり、本部で提案しているが、他の自主事業等は各施設において検討し、実施している。

日常のアンケートについては、施設の運営面は口答のみでしか聞く機会がないが、講座を実施した際にアンケートを取っており、評価をしてもらっている。多世代交流については、老人福祉センターというフィールドでどこまで多世代を巻き込めるかを注視しながらやっていくとともに、社協のもつ横のつながりで地域共生を浸透させていかれればと考えている。

**副委員長** これまで指定管理を行ってきた中での課題認識と、先を見据えた改善や新たな提案があれば教えてほしい。利用者アンケートの中で、利用者の健康度とニーズの把握を年1回でいいのかという疑問があるが、この点について見解を述べてほしい。

**応募団体** 市に相談、提案しながら現場を意識して事業展開してきたというところが今期の指定管理で取り組んできたことである。現場の意見を聞き、社会情勢を考えながら、高齢者支援課と相談しつつ条例のルールの中で事業実施していきたいと考えている。

利用者アンケートについて、先ほども説明したが、講座毎にアンケートを実施しており、講座は病院の先生や保健師など外部の方をお願いしているケースもあるため、今日のご意見を踏まえより健康度というところを注目して展開し

ていかれればと考えている。

**副委員長** これまでのイベントにおける参加者はテーマごとにばらつきがあるのか、それとも毎回同じ方が参加しているのか、また、参加人数はどれくらいなのか。

**応募団体** リピーターが多く来ている印象である。参加人数は概ね15～20人程度である。

**吉田委員** 目的と事業の内容、事業で達成したい効果とそれを図る指標が一連の流れになって評価できるようになるといいと感じた。今後高齢者支援課と協議していく中で、何を達成したいかを意識し、今やっている事業等を一歩進めた形で進めていかれないだろうか。例えば老人福祉センターは3館しかないため、より多くの地域の方に参加してもらい、地域に持って帰ってもらうコンテンツを紹介する機能が加わると、地域展開につながると思うため、その点を来年度意識してほしい。

**応募団体** 理想であり、この1年間でこういったことが出来るのか意識してやっていきたい。

**島澤委員** 健康度とニーズの把握について、老人福祉センターをこういった内容で利用した方にどのような傾向があるのか、といったクロスの集計ができるとよいと思うが、そういった分析はしているのか。

**応募団体** アンケートの中で健康に関する項目はいくつかあるが、クロス集計までは実施できていない。他市で実施事例があるフレイルチェックを単発ではなく、継続して実施していかれるかに着目しながらアンケートの実施ができれば。

**島澤委員** 地域づくり団体やサロンに老人福祉センターの利用者をつなげるという活動の実績はあるか。

**応募団体** 件数把握はしていないが、実際にいきいきセンターと老人福祉センターでつながりを持っているため、そこで地域サロンの紹介をすることや、逆に老人福祉センターを紹介するというような、その方が色々な場所に行かれるというような体制づくりはしている。

### (3) 候補者の選定

#### 【決定事項】

・選定委員の採点結果により、社会福祉法人柏市社会福祉協議会を、柏市老人福祉センターの指定管理者候補者とする。